

「マンツーマンディフェンス推奨」

平成27(2015)年9月12日
日本ミニバスケットボール連盟

1 技術研修

(1) マンツーマンディフェンスの見分け方

- ・マンツーマンの意識がある。(声・手・ポジション・感じる・アイサイン)
- ・ボールや相手と共に動いている。
- ・守るゴールのハーフコート内のスリーポイントエリア付近(マッチアップエリア)からはディフェンスをはじめている。オールコート・ハーフコート等ディフェンスをし始める場所は定めないが、チームとして統一のディフェンスであること。(一人はエンドラインから残りはハーフからつく等はいけない。)
- ・オンボールには1.5m以内を目安としている。スローインに於けるフロントコート(オールコートディフェンス時等)においては、オフボールのプレイヤーに対してトラップしない限り、1.5m以内は当てはまらない。
- ・オンボールのダブルチーム(トラップ)は良いが、トラップが収束したら直ちにマッチアップをし始めている。

(2) ゾーンディフェンスの見分け方

- ・上記に反すること。
- ・オフボールのポジションディフェンス(3線)が、ミドルラインを完全にまたぎ越している。
- ・オフボールのプレイヤーに対しての数的優位な守り方をしている。
- ・オフボールのオフenseのポジションチェンジで、対応していない。また安易にスイッチをしている。

(3) 上記以外のマンツーマンディフェンス

- ・スイッチ・ローテーションは構わないが、その後はマッチアップをする。
- ・ヘルプはしても構わない。ヘルプ後にオンボールにおいて、トラップになっても構わない。

運営上の留意点でルールではありませんが「故意でない技術不足によるところの上記以外のことが起こったからといって、それがすぐにゾーンディフェンスという訳ではない。」ということをおさえておきます。

2 コミッショナー

(1) コミッショナー制度の導入

大会運営本部は必要なときにコミッショナーを設けることが出来る。(全国大会では設ける)

コミッショナーには、混乱の生じないよう判別に熟知しているものを任命する。

資格は問わないが、必ず任命されたものが携わり、それが分かるよう腕章等で工夫する。

(2) コミッショナーの具体的職務

位置……試合を見渡せる場所 (T O 席反対側)

人数……1 人 (2 人でも良い)

時間……T O の準備の時間から試合終了まで

任務……マンツーマンチェック表等を有効に用い、明らかにゾーンディフェンスと判明した場合には、審判に合図をする。(旗を振る等)その直後の時計が止まっているときに、審判にその旨を伝え、審判は双方のコーチをT O 席前に招く。コミッショナーは、該当チームのコーチに内容説明をした後、審判が警告を与える。

その間プレイヤーはベンチ付近に待機させる。(タイムアウトではないので)その後、必要ならば、コーチからプレイヤーに説明する時間を与え、ゲームを再開させる。

次の違反からは、ベンチのテクニカルファウルが適用される。

試合後の処置……速やかに大会運営本部に報告する。

(3) 大会運営本部の違反 (ゾーンディフェンスにおけるテクニカルファウル) をしたコーチへの事後処置

試合後、速やかに本部で、今後同じ過ちをしないよう指導する。また本部が定めた書式 (日本ミニバスケットボール連盟が示した雛形を元に) によりその旨をまとめ、報告書として保管する。

大会本部の判断によりそこでとどめても良いが、悪質な場合や2 度目以降は、各都道府県ミニバスケットボール連盟を通じて、日本ミニバスケットボール連盟に報告書を提出する。(全国大会は直接日本ミニ連が関わっているため、上記の各都道府県が行う手続きはない。)

日本ミニバスケットボール連盟は事実を確認後、日本ミニバスケットボール連盟が行う特別講習にそのコーチが参加し講習を終えるまでは、日本ミニバスケットボール連盟が定めるところのライセンスの資格停止期間とする。

3 日本バスケットボール協会 (J B A) との連携

マンツーマンディフェンス推奨について、十分な理解を促進するために、日本ミニバスケットボール連盟と J B A は、協働して説明会・講習会を要請に応じて開催する。J B A がホームページに掲載したマンツーマンディフェンス解説文書とビデオが、日本各地に於いて伝達の糧となるよう補足していく。

「JBA15歳以下でのマンツーマンディフェンス推進について」 の導入準備資料における対応

平成27(2015)年9月12日

日本ミニバスケットボール連盟

【JBA 導入準備資料→対応】

- | | | |
|----|---------------------|---------|
| P1 | 前提 | →そのまま |
| P2 | マンツーマンディフェンス推進の趣旨 | →そのまま |
| P3 | マンツーマンディフェンスの効果 | →そのまま |
| P4 | マンツーマンディフェンスを推進する背景 | →1部変更要請 |

【JBA 資料】

・日本では、12歳以下 (U-12) のチームの90%がゾーンディフェンスを導入しており、～

【変更要請内容】

・日本では、12歳以下 (U-12) のチームの多くがゾーンディフェンスを導入しており、～

- | | | |
|----|--------------|---------|
| P5 | 導入のための各種取組み① | →そのまま |
| P6 | 導入のための各種取組み② | →1部変更要請 |

【JBA 資料】

●ミニバスケットボール競技規則の見直し
 - FIBAルール (国際競技規則) 則ったルールへの改定
 - 日本オリジナルルールの見直し
 (4校制限、10選手起用等)

【変更要請内容】

●ミニバスケットボール競技規則の見直し検討
 - FIBAルール (国際競技規則) 則ったルールへの改定検討
 - 日本オリジナルルールの検証及び検討

- | | | |
|----|------------------|--------------|
| P7 | 導入スケジュールイメージ (案) | →そのまま |
| P8 | マンツーマンディフェンスの基準① | →そのまま (下記補足) |

【JBA 資料】

マンツーマンディフェンスの基準①

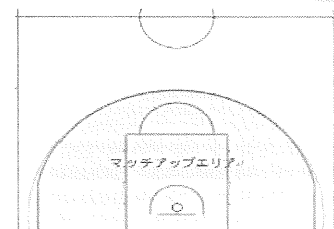
各種競技会において、ゾーンディフェンスの判定はマンツーマンコミッショナーが行うこととなります。
 マンツーマンディフェンスの基準は下記の案を前提に精査を行い、公式ルールとして発行します。

ゾーンディフェンス禁止に伴う、マンツーマンディフェンスの基準(案)

ゾーンディフェンスの判定は「大会主催者が任命したマンツーマンコミッショナー」(以下「責任者」)が行う。

1. マッチアップ

全てのディフェンス側プレイヤーは、マンツーマンで、オフェンス側プレイヤーの誰とマッチアップしているか明確でなければならない。このマッチアップルールはマッチアップエリア(3ポイントラインを目安とする)内では常に適用される。ディフェンス側プレイヤーのアイコンタクト、言葉のサインまたは手のサイン(指さしすること)により、明確に誰とマッチアップしているかが、責任者にわかること。



2. プレスディフェンス

チームがプレスディフェンスを採用した時(フルコート、3/4コート及びハーフコート)でもマッチアップルールの基準に合致すること。

注意: 様々なゾーンディフェンスまたはコンビネーションディフェンスは、マッチアップエリア以外でも不正である!
 プレスディフェンス採用時のルールは以下の通りである(フルコート、3/4コート及びハーフコート):

・ボールを持っている選手をトラップすることは許されるが、ローテーション後のピックアップを確実に、責任者にマッチアップが明確にわかるように行うこと。

* 下記補足は日本ミニバスケットボール連盟技術研修プリント

1. マッチアップ& 2. プレスディフェンス

- ・マンツーマンの意識がある。
(声・手・ポジション・感じる・アイサイン等)
- ・守るゴールのハーフコート内のスリーポイントエリア付近(マッチアップエリア)からはディフェンスをはじめている。オールコート・ハーフコート等ディフェンスをし始める場所は定めないが、チームとして統一のディフェンスであること。(一人はエンドラインから残りはハーフからつく等はいけない。)

P9 マンツーマンディフェンスの基準② →そのまま(下記補足)
【JBA 資料】

マンツーマンディフェンスの基準②

3. オンボールディフェンス

ディフェンス側プレイヤーのポジションは、ボールとリングの間に位置し、距離は最大1.5メートル、つまりシュートチェックと1対1のドライブを止められる距離であること。

オフボールディフェンス側プレイヤーがボールをレシーブした時、ディフェンス側プレイヤーがボールマンに付く意図が明確にわかる、上記した位置と距離にポジションチェンジをすること。

4. オフボールディフェンス

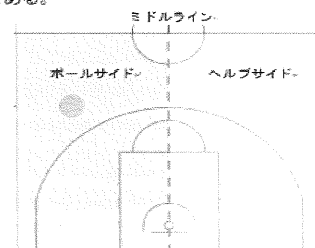
ディフェンス側プレイヤーは常にマッチアップするオフボールプレイヤーが見えるか、感じられるように移動しなくてはならない。ボールの逆サイド側(ヘルプサイド)のディフェンス側プレイヤーは、自分のマークマン(オフボールプレイヤー)及びボールも見えるポジションを取る(ボールとマークマンを見る)。

ボールがドリブルまたはパスで動いた場合、全てのディフェンス側プレイヤーはボールと共に動かなくてはならない(ボールが動けば、ボールとオフボールプレイヤーが見えるポジションと一緒に動く)。

ボールを保持していないオフボールプレイヤーがポジションを変えた場合、ディフェンス側プレイヤーもオフボールプレイヤーと共にポジションを変える。オフボールで、スクリーンが無い状況でのスイッチは禁止する。

全てのヘルプサイドにいるディフェンス側プレイヤーは、ヘルプまたはトラップに行く場合を除いて、最低限片足はヘルプサイドに置かなくてはならない。ボールサイドとヘルプサイドの境界線は、ミドルライン(リングとリングを結ぶ線)である。

全てのポジションで、ボールを持っていないオフボールプレイヤーをトラップすることは違反である。



* 下記補足は日本ミニバスケットボール連盟技術研修プリント

3. オンボールディフェンス

- ・オンボールには1. 5m以内を目安としている。スローインに於けるフロントコート(オールコートディフェンス時等)においては、オフボールのプレイヤーに対してトラップしない限り、1. 5m以内は当てはまらない。

4. オフボールディフェンス

- ・ボールや相手と共に動いている。
- ・オフボールのポジションディフェンス(3線)が、ミドルラインを完全にまたぎ越してはいけない。
- ・オフボールのプレイヤーに対しての数的優位な守り方をして

はいけない。

- ・ オフボールのオフENSEのポジションチェンジは、対応しなくてははいけない。

P10 マンツーマンディフェンスの基準③ →そのまま（下記補足）

マンツーマンディフェンスの基準③

5. ヘルプローテーション

ボールを持っていない選手のディフェンス側プレイヤーは、リングを守るために、オンボールディフェンス側プレイヤーをヘルプできる。オンボールディフェンス側プレイヤーがペネトレーションを止められず、抜かれた場合、リングへ向かうドリブルペネトレーションに対しては、ヘルプディフェンスが許される。オフボールのオフENSE側プレイヤーが、リングヘカットすることをヘルプすることも許される。オフボールディフェンス側プレイヤーは、ヘルプディフェンスのために一時的にディフェンスポジションを変えること(ヘルプローテーション)が許される。しかしながら、ヘルプディフェンス後、全てのディフェンス側プレイヤーは、直ちにオフENSE側プレイヤーとマッチアップ(前記した方法で明確に)しなければならぬ。

6. スイッチ

スイッチはスクリーン、トラップ後、ヘルプ後と“ラン&ジャンプ”の状況で許されるが、オフボールオフENSE側プレイヤーのポジションチェンジに対するスイッチは違反である。ディフェンス側プレイヤーがスイッチした場合、プレー中に、ディフェンス側プレイヤーが直ちに新しいオフENSE側プレイヤーとマッチアップ(前記した方法で)したことが、責任者に認識できるように明確にすること。

7. トラップ

ボールを保持している選手をトラップすることは、その後のディフェンス側プレイヤーのマッチアップが明確であればローテーションが許される。

※ルール違反の罰則

ゲーム中はマンツーマンコミッショナー(責任者)がマンツーマンディフェンスをコントロールする。責任者がルール違反を察知した時は、レフリーに指示し、レフリーが指揮を執るコーチに警告を与える。これは違反が起きた後の最初に時間が止まった時に実施する。その後のルール違反は、違反を犯した指揮を執るコーチのテクニカルファウルが宣告される。

10

* 下記補足は日本ミニバスケットボール連盟技術研修プリント

5. ヘルプローテーション& 6. スイッチ

- ・ スイッチ・ヘルプ・ローテーションは構わないが、その後はマッチアップをする。
- ・ オフボールのオフENSEのポジションチェンジは、安易にスイッチをしてはいけない。

7. トラップ

- ・ オンボールのダブルチーム(トラップ)は良いが、トラップが収束したら直ちにマッチアップをし始めている。

※ルール違反の罰則

マンツーマンチェック表等を有効に用い、明らかにゾーンディフェンスと判明した場合には、審判に合図をする。(旗を振る等)その直後の時計が止まっているときに、審判にその旨を伝え、審判は双方のコーチをT O席前に招く。コミッショナーは、該当チームのコーチに内容説明をした後、審判が警告を与える。その間プレイヤーはベンチ付近に待機させる。(タイムアウトではないので)その後、必要ならば、コーチからプレイヤーに説明する時間を与え、ゲームを再開させる。

次の違反からは、ベンチのテクニカルファウルが適用される。

- P11 マンツーマンディフェンスの基準④（映像）→1部削除・変更要請
1. 「ヘルプサイドディフェンス」の「2線目のディフェンス」の「ルール違反」の部分の映像の削除
 2. 「ヘルプローテーション」の『明らかに抜かれた場合はヘルプできる』を『ヘルプの結果オンボールにトラップになっても構わない』に変更
- P12 終わりに →そのまま

「マンツーマンディフェンスチェック表」

1. 記入者

都道府県	役職	氏名(2名のときは、ここに2名記入)

2. 試合

日時	会場	試合NO.	対戦カード

3. チェック表

分類	チェック項目	A	B
1	・マンツーマンの意識がある。(声・手・ポジション・感じる・アイサイン)		
2	・ボールや相手と共に動いている。		
3	・守るゴールのハーフコート内のスリーポイントエリア付近からはディフェンスをはじめている。 ・オールコート・ハーフコート等ディフェンスを始める場所は定めないが、チームとして統一のディフェンスであること。(一人はエンドラインから残りはハーフからつく等はいけない。)		
4	・オンボールには1.5m以内を目安としている。(自陣バックコート)		
5	・オンボールのダブルチーム(トラップ)は良いが、トラップが収束したら直ちにマッチアップをしない。		
6	・オフボールのポジションディフェンス(3線)が、ミドルラインを完全にまたぎ越していない。		
7	・オフボールのプレイヤーに対しての数的優位な守り方をしていない。		
8	・オフボールのオフフェンスのポジションチェンジに対応して動いている。また容易にスイッチしてい		

4. 警告

回数	チーム名	警告分類	警告時間帯	備考(指導者名等)

回数	チーム名	警告分類	警告時間帯	備考(指導者名等)

* 故意でない技術不足によるところの上記以外のことが起こったからといって、それがすぐにゾーンディフェンスという訳ではありません。